

予習確認プリント

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

・色の三属性とは何か？また、それぞれの属性はどのような意味を持つか？

・マンセル表色系とは何か？

・有彩色，無彩色，純色はどのような関係にあるか？

・暖色と寒色，進出色と後退色のそれぞれの違いは？

・対比とは何か？同化とは何か？

※予習の段階に比べて、授業を聞き終わった段階では、何がわかりましたか？

2 色彩

2 表色 (教科書 pp. 26~27)

XYZ 表色系の補足

- ・任意の色を、三つの原刺激 $[X]$, $[Y]$, $[Z]$ の加法混色により再現できるとする。この時、三原刺激 $[X]$, $[Y]$, $[Z]$ のそれぞれの混合量を _____ X , Y , Z と言う。ただし、 $[Y]$ のみに測光的な _____ を受け持たせ、 $[X]$ と $[Z]$ には色らしさのみを示すように操作されている。
- ・三刺激値 XYZ から算出した色度座標 (x, y) と Y で色を表示する。色度座標 (x, y) を 2 次元の直角座標に表したものを _____ という。
- ・色度図と光源色については、教科書 p. 26 の右下の図を参照。
→釣鐘形の外周部がマンセル色相環に対応(波長が 380~780nm の単色光の色度座標を示す。)
- ・工業製品のように厳密な色管理が要求される部門で用いられる。

オストワルト表色系の補足

- ・ドイツの化学者 W. Ostwald が発表した表色系。

3 色の名称 (教科書 p. 28)

無彩色の補足

→光源が可視光の波長範囲を均等に含み、表面が各波長の光を均等に反射すれば反射光は白く見え、均等に吸収すれば表面は黒く見える。このように、反射率・吸収率に波長による偏りがないと、表面色は明暗のみで彩りがなく、無彩色となる。

JIS 系統色名：一般的な名称で色を表示する方法

「明度・彩度に関する修飾語+色相に関する修飾語+基本色名」

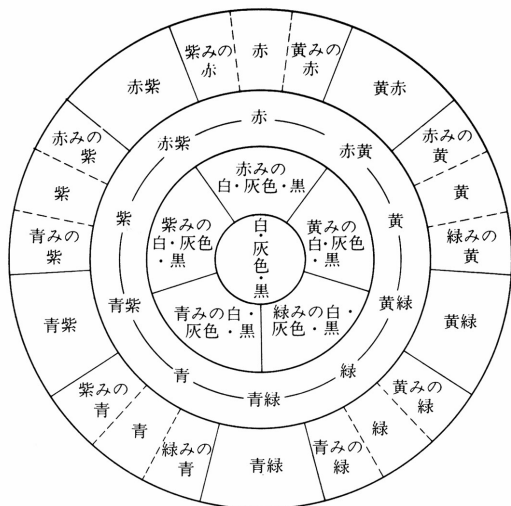


図 色相に関する修飾語の相互関係 (JIS Z 8102-1985)
(出典：参考文献[1], p. 123)

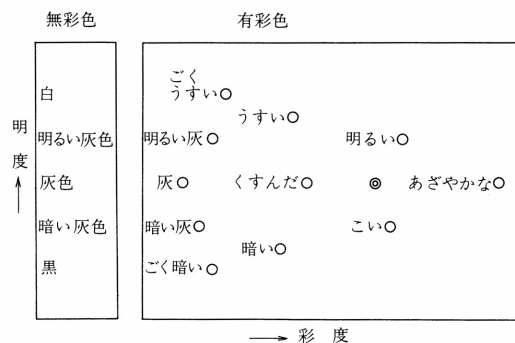


図 無彩色の明度ならびに有彩色の明度および彩度の相互関係 (JIS Z 8102-1985)
(出典：参考文献[1], p. 123)

表 慣用色名の例 (JIS Z 8102-1985) (出典：参考文献[1], p. 123)

慣用色名	系統色名
あかね色	こい赤
茶色	暗い黄赤
象牙色	明るい灰黄
ひわ色	黄緑
青磁色	くすんだ青みの緑
利久ねずみ	灰緑
鉄色	ごく暗い青緑
あさぎ	緑みの青
納戸色	くすんだ緑みの青
古代紫	くすんだ紫
なす紺	暗い灰紫
とき色	うすい紫みの赤

4 色の効果 (教科書 pp. 29~32)

色彩の主観的効果

- ・記憶上の色彩は、一般に実際の色彩に比べて、彩度が高くなる傾向にある。

色彩調和の補足

- 秩序性の原理 例) 補色同士の配色など
親近性の原理 例) 同じ色相の色の明暗や濃淡による配色など
共通性の原理 例) 色相, 色調, 暖冷感のイメージを共通要素とする配色など
明瞭性の原理 例) 大面積の低彩度色と小面積の高彩度色の配色など

【教科書の訂正】

p. 26 「2-1 XYZ 表色系」の左下の囲み

「この両側の 2 色を混ぜ合わせると, 2 色の配合の割合で直線上の色になる。」

→ 「この両側の 2 色を混ぜ合わせると, 2 色の配合の割合で, 直線上の**いずれか**の色になる。」

p. 30 「⑤安全色」

学芸出版社のホームページ掲載の正誤表を参照

<http://www.gakugei-pub.jp/mokuroku/book/ISBN978-4-7615-2476-0.htm>

【参考文献】(順に, タイトル, 編著者名, 出版社, 発行年月, 価格, ISBN。[] 内は熊本県立大学附属図書館所蔵情報)。

- [1] 『環境工学教科書 第二版』(環境工学教科書研究会編著, 彰国社, 2000 年 8 月, ¥3,500 + 税, ISBN: 4-395-00516-0) [開架 2, 525.1||Ka 56, 0000275620, 0000308034]
[2] 『おはなし科学・技術シリーズ 色のおはなし 改訂版』(川上元郎, 日本規格協会, 2002 年 11 月, ¥1,300 + 税, ISBN: 4-542-90259-5) [開架 2, 425.7||Ka 94, 0000300764]
[3] 『建築の色彩設計』(乾正雄, 鹿島出版会, 1976 年 8 月, ¥3,700 + 税, ISBN: 4-306-03127-6) [開架 2, 528.8||I 59, 0000236070]
[4] 『建築の色彩設計法』(日本建築学会, 日本建築学会 (発売: 丸善), 2005 年 4 月, ¥3,400 + 税, ISBN: 4-8189-2664-7) [開架 2, 528.8||N 77, 0000292951]

【参考 URL】

[1] 「色彩検定」に関するホームページ

<http://www.aft.or.jp/>

[2] 「カラーコーディネーター」に関するホームページ

<http://www.kentei.org/color/index.html>

学年：_____ 学籍番号：_____ 名前：_____

【問題 1】照明・色彩に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。理由も述べよ。

1. 演色性は照明光の種類によって変化する視対象の色の見え方を表す特性であり、視対象の色そのものによって影響を受ける。
2. xyz 表色系において、xy 色度図上の原点に近い色は青であり、x 方向への増大で次第に赤、y 方向への増大で次第に緑が強くなる傾向をもつ。
3. xyz 表色系において、2 色の混色の結果は、xy 色度図上の 2 色の位置を結んだ線上で表示される。
4. マンセル表色系において、7.5YR8/5 と表示される色を「もう少し明るい色にしたい」とときには、7.5YR9/5 などと表現する。
5. 視認性は、対象とするものがはっきり見えるか否かという特性であり、視対象と背景の色との間で、色相、明度、彩度の差が大きくなれば視認性が向上し、特に明度差の影響が大きい。

【問題 2】色彩に関する次の記述のうち、最も不適当なものはどれか。理由も述べよ。

1. 同じ色であっても、一般に、面積の大きいものほど明るく鮮やかに見える。
2. 色の見え方は、その色を照明する光源の種類によって異なる。
3. 色の見え方は、見る方向によって異なる。
4. 薄暗くなると日中に比べて、赤色が他の色よりも、相対的に明るく鮮やかに見える。
5. 色の見え方は、その直前まで長時間見ていた色によって異なる。